

「人生のやる気デザイン」研究部会（第37回）

日時：2023年8月28日（月）13：00～16：00

場所：野間教育研究所（中谷氏のみオンライン）

出席：渡辺弥生・榎本淳子・倉住友恵・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員
山口和人所長・金沢千秋・泉水里香（野間教育研究所事務局）

内容：（1）榎本研究員：大テーマは「成人先天性心疾患患者の病みの軌跡」で、今回は「ふたつの世界を生きること／質的研究をまとめるということ」で研究発表

1. 用語（概念）の整理

- ・ Goffman のアイデンティティ概念を整理
社会的アイデンティティ／自我アイデンティティ / 個人的アイデンティティ
／Goffman 以降のスティグマの考え方
- ・ White & Epston の物語の構造化
ドミナント・ストーリーとオルタナティブ・ストーリー

2. これらの概念を質的研究に用いる研究論文を紹介

中井好男・丸田健太郎（2022）. 音声日本語社会を生きるろう者家族の生きづらさ—
見えないマイノリティによる当事者研究「質的心理学研究」, 21, 73-90.

（2）中井研究員：「恋愛へのパッションと恋愛関係の形成・維持への動機づけの関連—
パッションの二元論モデルの観点から—」として、過去の調査・研究を
紹介、考察

1. 調査対象：A 県の大学生 18～22 歳 177 名のうち、「これまでの恋愛経験は何人かという質問に「1 人以上」と答えた 132 名を対象とした
2. 調査時期及び実施方法：2021 年 1 月に Web 調査
3. 結果と考察

- ・「調和性パッション」は自律的な恋愛関係への動機づけを促進し、統制的な恋愛関係への動機づけを抑制する可能性が示唆される
- ・「強迫性パッション」は統制的な恋愛関係への動機づけを促進したと考えられる

4. 今後の課題

- ・測定対象を限定することを検討する必要がある
- ・サンプルサイズを拡大した検討を行う必要がある
- ・異性愛以外の対象者にも本研究の知見が適応可能かを検討する必要がある

・次回研究会 9月25日（月）13：00～

・次々回研究会 10月23日（月）13：00～